

# 大型類人猿情報ネットワーク(GAIN)2020 年度第 1 回運営連絡会議事録

日時：2020 年 7 月 4 日（土）11:00~12:00

会場：京都大学野生動物研究センター地下会議室（Web 会議並行開催）

出席者：伊谷原一（京都大学野生動物研究センター・事業代表者）、幸島司郎、村山美穂、田和優子（以上、京都大学野生動物研究センター）、今井啓雄（京都大学霊長類研究所）、田中正之、山梨裕美（以上、京都市動物園）、山本真也（京都大学高等研究院）、竹下秀子（追手門学院大学）、川上文人（中部大学） 以上 10 名。

陪席：有井秀幸（京都大学野生動物研究センター・事務掛長）、左海陽子（京都大学野生動物研究センター・GAIN 経理担当）

オブザーバー：高山卓三、藤井元（以上、国立研究開発法人日本医療研究開発機構バイオバンク課）、鈴木智広（情報・システム研究機構国立遺伝学研究所）

## I. 2020 年度活動計画について

資料（別添）に沿って、本事業のこれまでの活動および 2020 年度の活動計画について説明し、出席者の了承を得た。以下に、席上いただいたコメントの概要を記す。

- 試料提供への協力要請について：2019 年度中に国内で死亡した類人猿 16 個体中 7 個体については GAIN への試料提供はなかった。死亡直後の剖検で採材まで実施できるキャパシティがない、自施設で標本を保存する方針である等、飼育施設ごとに事情があるが、試料譲渡について施設長の理解を得られていない・GAIN 事業について認知されていないケースもあり、より多くの施設から協力を得るために定期的な呼びかけが必要である。

## II. 新型コロナウイルス感染症拡大による事業への影響について

新型コロナウイルス感染症拡大による事業運営への支障について、それほど深刻ではないが以下のとおり一部影響があった旨報告した。また、飼育個体が新型コロナウイルス陽性となった場合の対応について情報交換をおこなった。

- 死亡個体の試料提供への影響：2020 年 5 月 8 日に熊本サンクチュアリにてチンパンジーのオス・ブラックが死亡した。当該施設においては通常であれば剖検時に各種臓器の採材がおこなわれるところ、今回は同様の対応が難しかった。
- 広報活動について：研究者コミュニティへの GAIN の認知拡大のため、サル疾病ワークショップ（サル類の疾病と病理のための研究会主催）等に新たに参加する予定であったが、相次いで延期・中止となった。学会・シンポジウムにおける広報活動の代替として、例えば研究試料の利用方法を動画で紹介する等、今後検討する。
- 飼育個体がコロナウイルス陽性となった場合の対応：霊長類研究所では対策フローを策定しており、サル類用の PCR 検査系が準備されている。もし動物園で感染疑いのある個体がいる場合にも、糞便・唾液などが採取できれば、京都大学ウイルス・再生医学研究所にて検査できる可能性がある。

次回日程：2021 年 2 月 6 日（土）場所：名古屋およびその近郊（予定）